

編集後記

仲先生の後を受けて編集委員長を担当させていただきました。皆様のご協力により10巻1号を完成させることができました。今年度は、委員長経験者の一ノ瀬先生が委員に加えていただいて、田中先生、安武先生も大変優秀な先生なのでとても心強く感じました。皆様のご協力のおかげで原稿集めは1か月ほど早まったにも関わらず、予定通り原稿が集められてとても素晴らしかったと思います。

情報科学部関係者の寄稿は「卒業生からのメッセージ」、「現役学生による就職活動報告」、「退職された先生の近況報告」となっており、内容充実を図りました。とても興味深い内容ですので、ぜひご一読下さい。

これで2年間の編集委員の任期を終了します。原稿を執筆いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。(成)

編集委員を務めるのは創刊号以来2回目です。創刊号と比べて内容がバラエティーに富んでいることが大きな進歩だと思います。今回、卒業生や4年生に原稿を依頼しましたが、~~メ~~切前に原稿を受け取り、とても嬉しく思いました。きっと卒業生は既に良い仕事をしており、4年生も卒業後、就職先で良い仕事をするとと思います。我が身を振り返り、~~メ~~切は守らないといけないと、改めて思いました。(一ノ瀬)

今年で2回目となる編集委員としての仕事は、報告の原稿依頼と、論文一覧の作成でした。しかしながら、報告の執筆を依頼する先生方が、ほとんど編集委員だったため、実際には数名の先生に依頼するだけの仕事になってしまい、編集委員としての仕事よりも原稿執筆の時間の方に時間を費やしました。本稿では<報告>として、社会人基礎力育成グランプリ2011の参加報告をさせて頂きました。この研究開発グループを基盤として、学部連携共通プログラムを立ち上げる準備をしています。来年度は、任期が終了するため編集委員ではありませんが、このプログラムの紹介ができればと考えています。(田中)

情報科学会誌にはこれまで毎年のように記事を書かせていただいていたいました。今回、編集委員となり会誌全体が見えることから、記事の内容に特化して執筆できるようになったと思います。編集委員の仕事としては主に先生方へ原稿執筆の依頼をしました。複数の原稿を担当すると負荷が高いため、記事うまく分散する必要があると感じました。会誌のトピックをたくさん準備し、その中から負荷を考慮して記事を選択できるようになると良い

のではないかと思います。(安武)